

大田区 基本構想審議会 第1部会 資料

第1回

平成19年10月11日(木)



目次

- 第1部会の役割.....3
- 第1回部会の論点.....4

- 論点1:大田区の都市構造と核となるまちづくり.....5
- 論点2:安全・安心で暮らしやすいまちづくり.....11
- 論点3:大田区らしい魅力の再発見と活用.....16



第1部会の役割

- 都市基盤・産業に関して、基本構想に盛り込むべき将来像、方向性などを提案
- 以下の3つの論点について検討(案)
 - まちの魅力を活かしたまちづくりを実現するためには、どのような視点が必要か
 - 羽田空港を含む臨海部を、まちづくりにどう活かすか
 - 日本・世界を支える大田区の産業はどうあるべきか
- 工程については別紙参照



第1回部会の論点

「まちの魅力を活かしたまちづくりを実現するためには、どのような視点が必要か」

【大田区の都市構造と核となるまちづくり】

- 20年後の大森、蒲田他のまちの姿をどのように描くか？
- 個性あるにぎわいの視点からのまちづくりとは？
- 交通ネットワークという視点からのまちづくりとは？

【大田区らしい魅力の再発見と活用】

- 水辺とみどりの視点からのまちづくりとは？
- 産業・観光という視点からのまちづくりとは？

【暮らしやすいまちづくり】

- 安全・安心と暮らしやすさの視点からのまちづくりとは？



論点1:
大田区の都市構造と核となるまちづくり

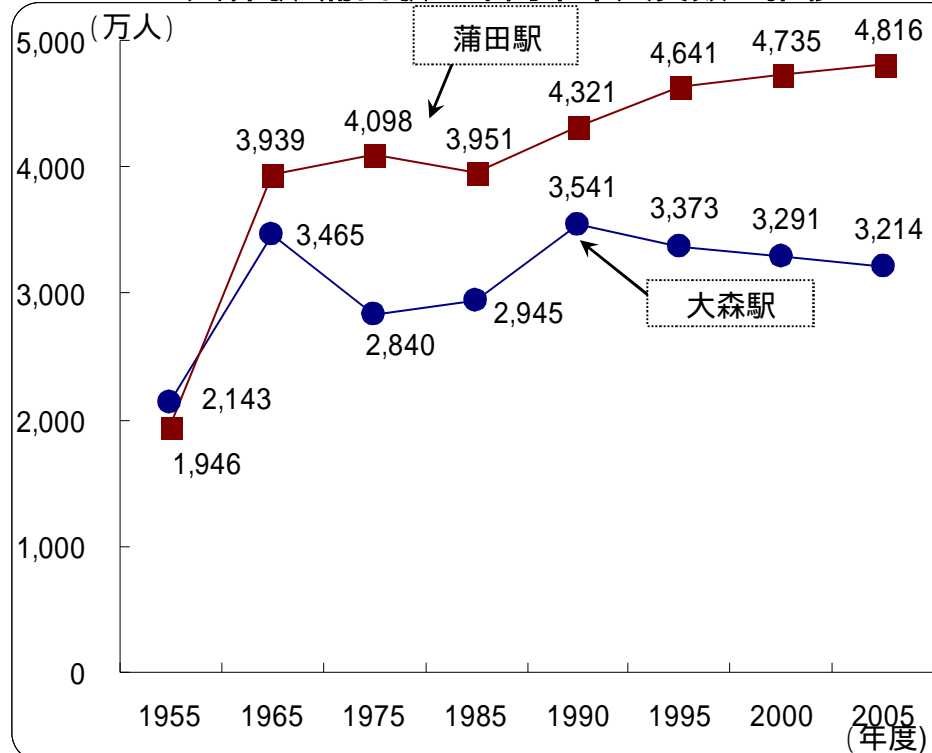
大田区の都市構造と核となるまちづくり

【現状】

JR大森・蒲田両駅の年間乗車人員数は1990年以降、大森駅は減少傾向、蒲田駅は増加傾向にある。

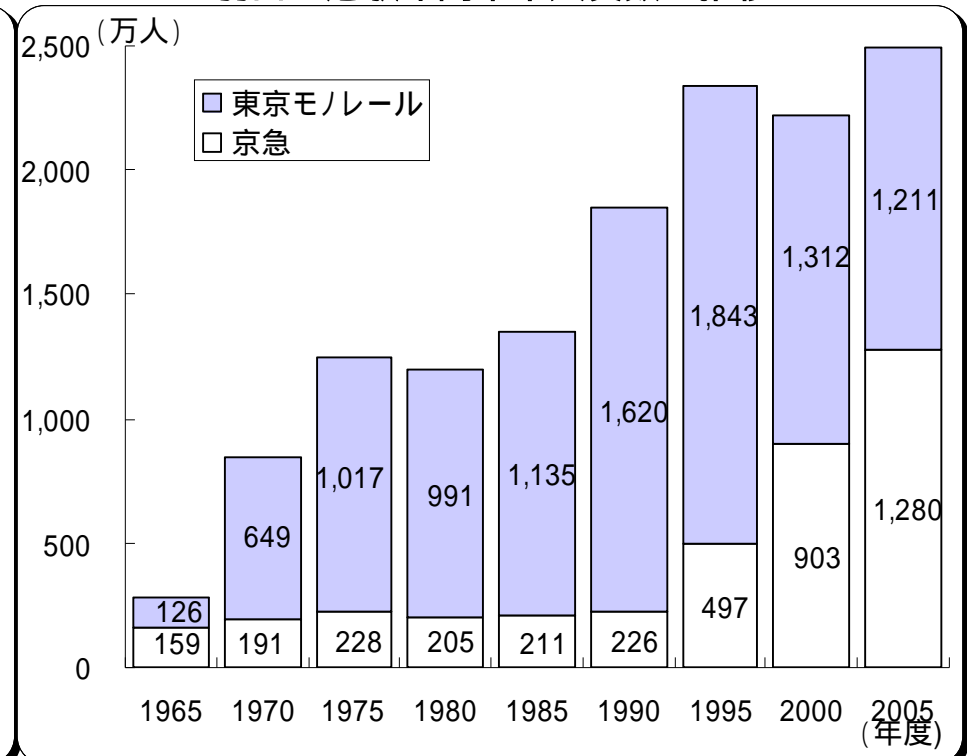
羽田空港駅(京急、東京モノレール)の利用者数は、空港利用者数の増加や、ターミナルビルの増設や機能強化等に伴い、近年増加傾向にある。今後の第4滑走路整備や国際旅客ターミナル整備、跡地開発等に伴い、さらに集客力が強化されることが想定される。

JR大森駅・蒲田駅の年間乗車人員数の推移



(資料)「大田区区政要覧」「大田区の数字」(大田区)より作成

羽田空港駅年間乗車人員数の推移



(注)京急の1995年は羽田駅。モノレールの1990年までは羽田駅。モノレールの2005年は羽田空港第1ビル駅と羽田空港第2ビル駅の合計。

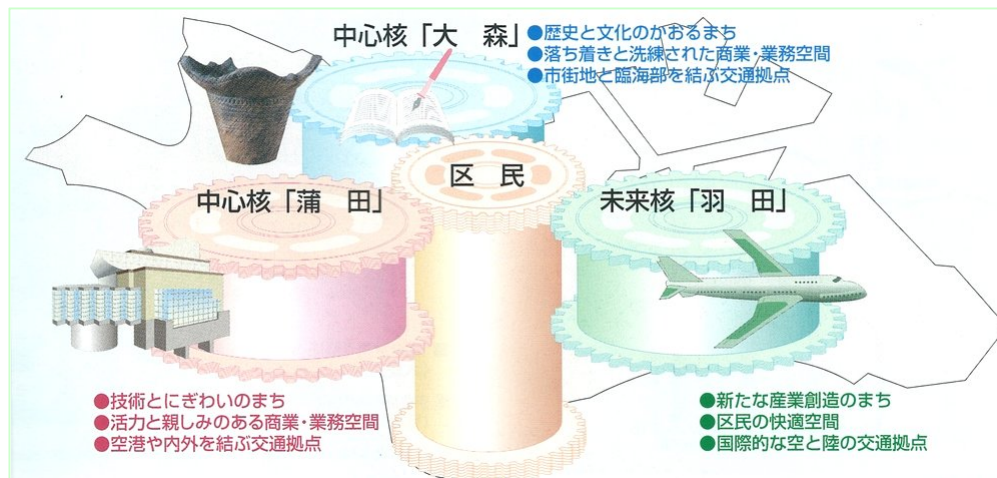
(資料)「東京都統計年鑑」(東京都統計協会)より作成

大田区の都市構造と核となるまちづくり

【現状の施策にみる方向性】

現行基本構想・長期基本計画においては、「蒲田」「大森」を大田区のまち全体の核であり、商業・業務機能が集積する「中心核」、羽田を新たな発展が期待される「未来核」と位置づけるとともに、糎谷、雑色、大岡山、雪が谷大塚、池上、平和島の各駅周辺を「地域核」と位置づけている。

大田区の都市構造(中心核・未来核・地域核)



(資料)「大田区長期基本計画 おおたプラン2015」(大田区)より作成



(資料)「大田区長期基本計画 おおたプラン2015」(大田区)より作成 7

大田区の都市構造と核となるまちづくり

【現状の施策にみる方向性】

中心核「大森」「蒲田」は、商業・業務機能の一層の活性化が必要となっている。さらに、未来核「羽田」との連携を図るとともに国際的で個性的なまちづくりを進める必要がある。

「未来核」羽田においては、国際化や多様化する空港需要に対応した機能の充実が求められている。また、今後は沖合展開後の跡地有効活用が課題となっている。

このほか、「地域核」においても、京急線の連続立体交差事業とあわせて糀谷・雑色の各駅周辺の市街地再開発に関する検討が進んでいる。また、大岡山駅や雪谷大塚駅の周辺整備など各「地域核」においても地域特性を踏まえた整備が進められている。



(資料)「大田区長期基本計画 おおたプラン2015」(大田区)より作成

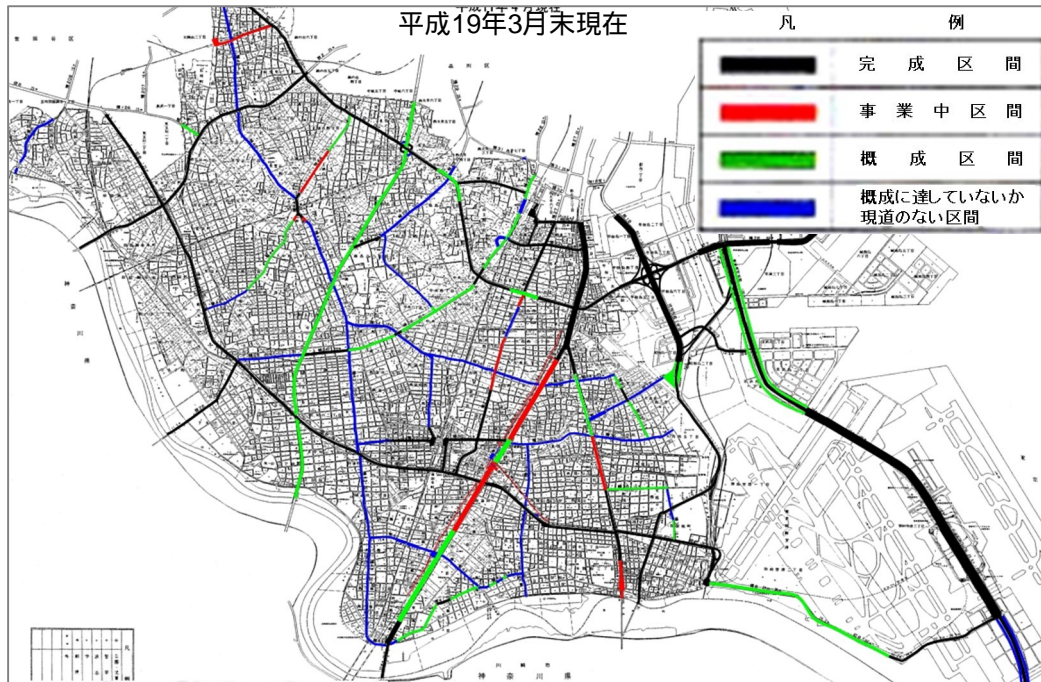
大田区の都市構造と核となるまちづくり

【現状の施策にみる方向性】

現行基本構想では区内の東西方向を連絡する鉄道網整備に言及しているが、蒲蒲線やエイトライナー等は実現に至っていない。一方、都市計画道路の半数以上が未整備であり、道路整備も大きな課題である。

東京都の「東京の水辺空間の魅力向上に関する全体構想」(平成18年2月)においては、隅田川から羽田に至る舟運の軸が形成される「多様で魅力ある舟運ネットワーク」などを将来像(約30年後)として提示している。

大田区都市計画道路事業現況図

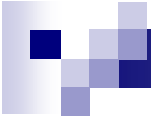


(資料)「大田区都市計画道路事業現況図」(大田区)より作成

東京湾を活用した首都圏広域ネットワークイメージ



(資料)「東京の水辺空間の魅力向上に関する全体構想」(東京都)



大田区の核となるまちづくりにおいて、なにを
目指すか

将来のあるべきまちの姿とは

施策の方向性はどうあるべきか



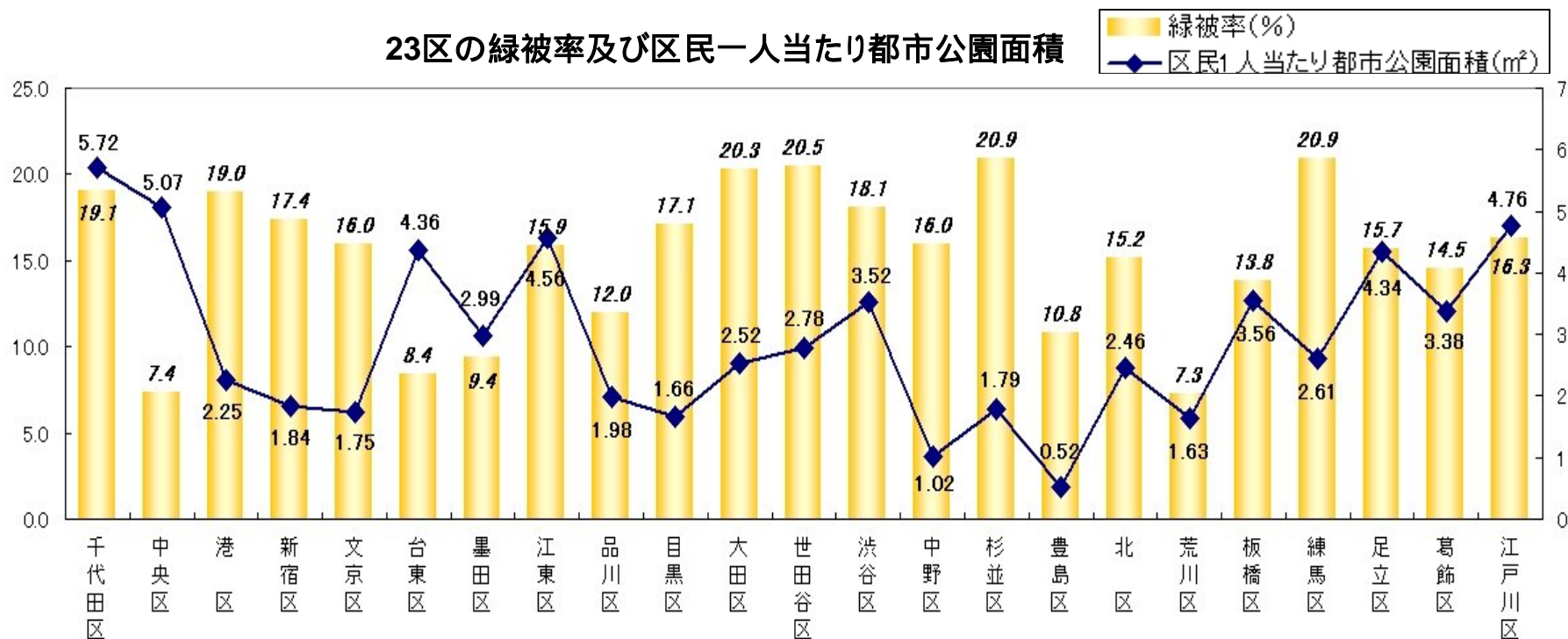
論点2:

大田区らしい魅力の再発見と活用

大田区らしい魅力の再発見と活用

【現状】

大田区の緑被率は20.3%であり、23区中、第4位である。
 大田区の1人当たり都市公園面積は、2.52㎡であり、23区中、第13位である。
 区内のまとまった緑は台地部に偏在している。



(資料) 緑被率: 目黒区の資料より作成(2003~2004年度調査)
 緑被率とは、ある地域又は地区における緑地(被)面積の占める割合
 2003~2004年度調査

(資料) 区民一人当たりの都市公園面積: 東京都建設局公園緑地部『公園調書
 (平成18年4月1日現在)』

注: 1. 都の公園が2区にわたって所在している場合、面積はそれぞれ該当する区に分けて記載し、個所数は面積の多い区に算入した。

2. 人口は、『東京都の人口(推計)平成18年4月1日現在』(東京都総務局統計部)を使用した。

都市公園: 都立公園、区立公園の合計(海上公園は除く)

データは2006年4月1日現在

大田区らしい魅力の再発見と活用

【現状】

大田区は長い海岸線を持ち、大森等における海苔養殖をはじめとして、海との関わりの深い歴史を持っている。また、多摩川、呑川、丸子川、内川などの河川にも恵まれ、水辺環境の豊かな立地特性を有している。

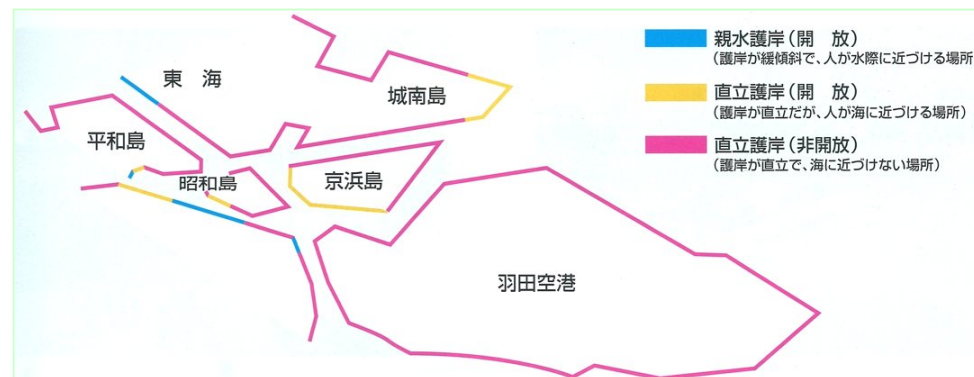
しかし、防災・治水機能の重視や工業化等によって海岸・河川ともに親水性の低い場所が多く、「大森ふるさとの浜辺公園」の整備などを進めてきたものの、まだその水辺環境を活かし切れていない状況にある。

大森ふるさとの浜辺公園



平成19年4月に開園した、区立では初の海浜公園。ワークショップや報告会等の区民参加を経て、整備された。かつての大森海岸を再現し、人口の海浜・干潟・磯等を有している。

海外線の状況



(資料)「大田区長期基本計画 おおたプラン2015」(大田区)より作成

大田区らしい魅力の再発見と活用

【現状の施策に見る方向性】

現行基本構想・長期基本計画においては区内を東西に貫く呑川を「緑道軸」、多摩川から東京湾に連なる水際線を「ウォーターフロント軸」と位置づけており、両軸沿いに水と緑の拠点整備を進めることとしている。このほか、区内には歴史に根ざした文化資源や、製造業や大森海苔など産業に関連する多様な地域資源を有している。これらの魅力を掘り起こすことによって、地域の人々にとっても、来街者にとっても、区内を巡るのが楽しいまちをつくるポテンシャルを有している。

大田区がめざす水と緑、歴史、文化等の拠点とネットワーク図



(資料)「大田区都市計画マスタープラン」(大田区)より作成

注：臨海部埋立地域については帰属の決まっていない区域がある。



大田区らしい魅力の再発見と活用のために、
なにを目指すか

将来のあるべきまちの姿とは

施策の方向性はどうあるべきか



論点3:

安全・安心で暮らしやすいまちづくり

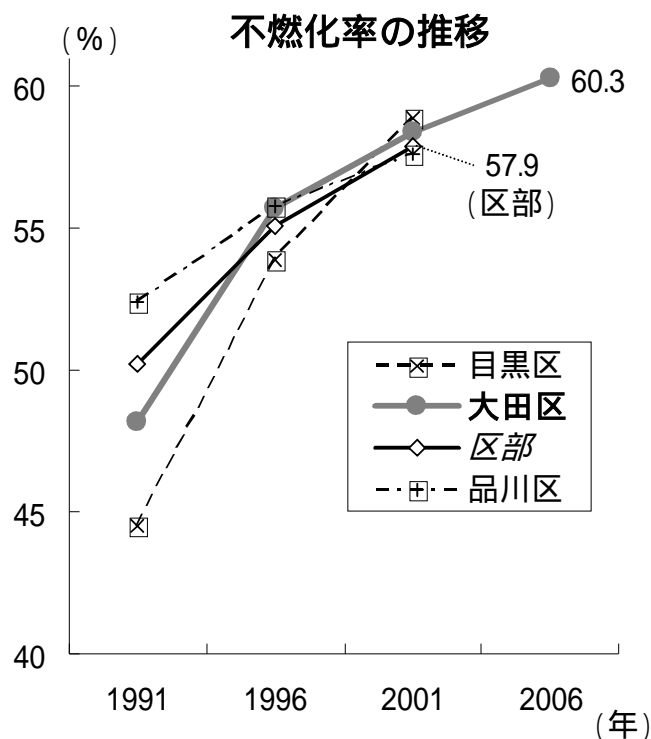
安全・安心で暮らしやすいまちづくり

【現状】

区民世論調査における「特に力を入れて欲しい施策」では、「高齢者対策」に次いで「防災対策」が第2位であり、近年こうした傾向が続いている。

区内には木造住宅の密集地域も残る。不燃化率は年々改善されており、区部平均を若干上回るまでになったが、依然として耐火造(ないし簡易耐火造)ではない建築物が約4割残っている。

多摩川等の浸水が予想される地域があるなど、治水も防災上の大きな課題である。本年9月にも区内で台風等による影響で、風水害被害が発生した。



施策要望の過年度比較

	平成18年度	平成16年度	平成14年度	平成12年度	平成11年度
1位	高齢者対策	高齢者対策	高齢者対策	高齢者対策	高齢者対策
2位	防災対策	防災対策	緑化推進	防災対策	防災対策
3位	緑化推進	緑化推進	休日診療	休日診療	清掃・リサイクルの推進
4位	公園・児童遊園の整備	休日診療	清掃・リサイクルの推進	緑化推進	緑化推進
5位	休日診療	清掃・リサイクルの推進	防災対策	清掃・リサイクルの推進	公害対策
6位	低所得世帯の援護	交通安全対策	公害対策	公害対策	道路の整備

(資料)「大田区政に関する世論調査」

(資料)「東京都統計年鑑」(東京都統計協会)等より作成

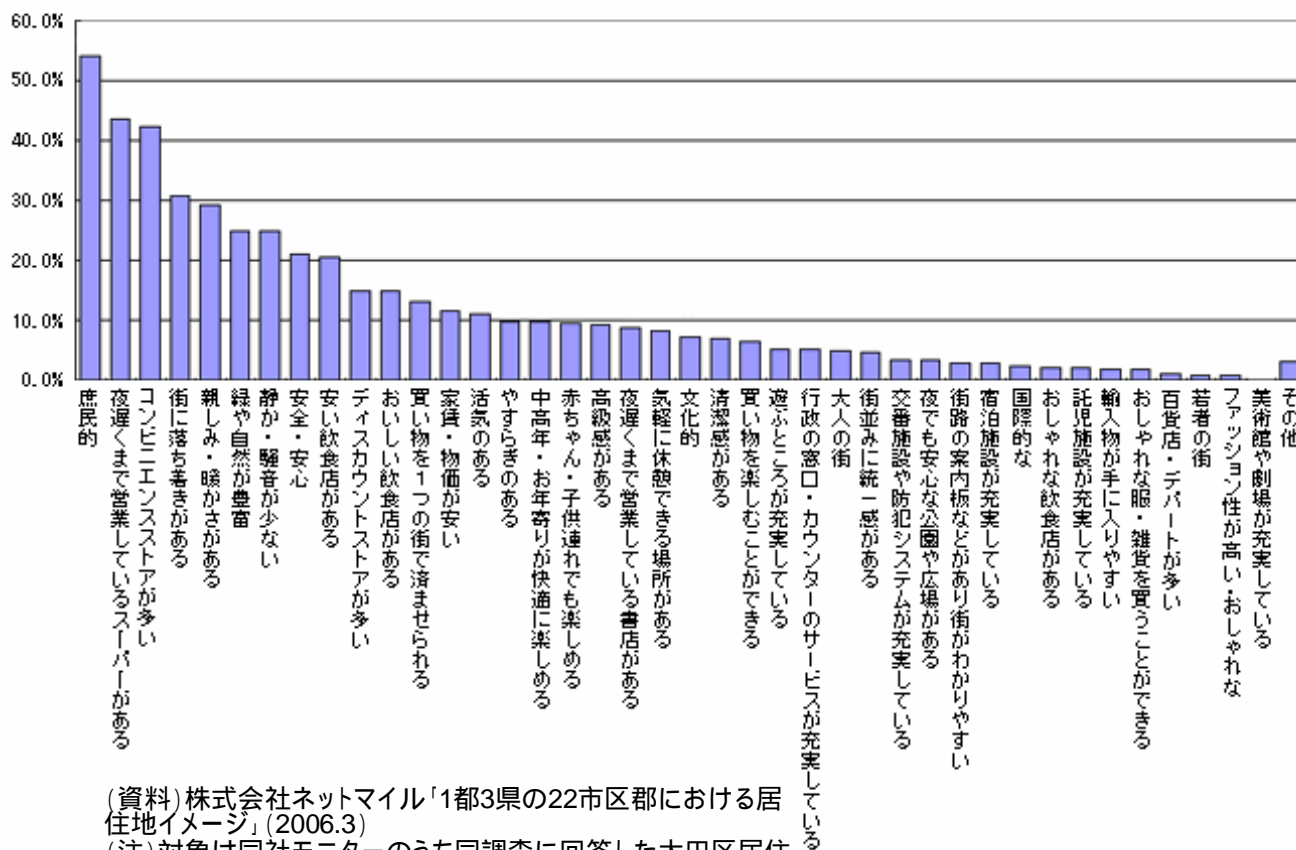
(注)不燃化率とは、建築面積の総数のうち、耐火建築物等が占める割合

安全・安心で暮らしやすいまちづくり

【現状】

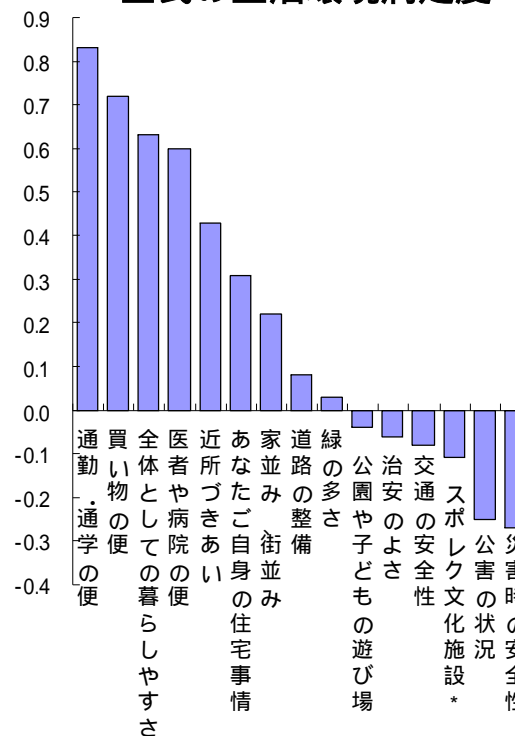
民間インターネット調査会社の調査によると、大田区居住者は大田区の庶民性や、買い回り品の利便性・安さや、緑や街の落ち着きを高く評価している。一方で、おしゃれなイメージや交流に関するイメージは回答が低い。大田区役所の世論調査によると、区民の生活利便性に関する評価は高い一方で、安全に関する評価は低い。

大田区居住者の居住地イメージ



(資料) 株式会社ネットマイル「1都3県の22市区郡における居住地イメージ」(2006.3)
 (注) 対象は同社モニターのうち同調査に回答した大田区居住者937人。なお、同調査結果によると、大田区は「居住者の満足度は高いが、引越し想定先の人気は高くない地区」である。


区民の生活環境満足度



(資料) 「平成18年度大田区政に関する世論調査」(大田区)

(注) 回答を「満足している」(2点)～「不満である」(-2点)として、各項目の評価を点数化したもの

*: スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ



安心・安全・暮らしやすさの観点から、なにを
目指すか

将来のあるべきまちの姿とは

施策の方向性はどうあるべきか